

令和 5 年度地域包括支援センター事業中間報告（令和 5 年 11 月末時点）

印西市印西南部地域包括支援センター

事業ごとの評価	
総合相談支援業務	相談件数は昨年と同様。以前よりも多方面からの相談が入るようになってきており、相談対応機関としての周知が広まっていると思われる。 他機関との連携もスムーズにいくことも多くみられている。
権利擁護業務	成年後見に関する相談は5件であったが、相続や財産管理に関する関心は高い傾向にあり。「終活」に関わる内容で勉強会も実施予定（12月）。 虐待対応は、虐待と権利擁護が同時に発生する時もあること、解決が難しく時間を要してしまいがちになることなど、今後の課題とも言える。介護支援専門員からの、虐待に発展しないための相談は前年同様に入っている。
包括的・継続的ケアマネジメント業務	介護支援専門員との良好な連携が取れるよう必要な情報の発信や日頃の関わりは継続してできている。 特に重点的に、第2層生活支援コーディネーターがケースに対しても関われること、インフォーマルサービス情報を提示できることを継続的に発信してきた。その結果、インフォーマルサービスと繋がったケースもある。しかし、まだ実績としては少ないため今後も取り組むべきこととして挙げられる。 市と連携し介護支援専門員に対する必要な研修を企画・実施した。
地域ケア会議推進事業	地域思いやりケア会議を2件開催。当該会議の開催に至らないケース検討は適宜行っている。 地域ケア推進会議は計画通り2回実施。出席者が意欲的に会議に参加されていること、続きをしたいと思いますこと、自分の地域に持ち帰って次の取組に活かそうとしていること等、ネットワークや地域包括ケアシステムの構築のために取り組められていると感じられる。

在宅医療・介護連携推進事業	<p>「在宅医療・介護連携、認知症対策推進会議」「在宅医療・介護市民講演会」「多職種連携研修会」への実施協力や出席。</p> <p>前年度から継続して、救急キットの活用促進について出前講座での周知を徹底した。また、救急キット申請のタイミングで、包括の役割を知って頂けるように丁寧な説明を行った。</p> <p>訪問看護事業所一覧の更新と、近隣病院連携室との連携体制づくりに努めた。(連携室周り)</p> <p>市民向けの在宅療養に関する勉強会を5圏域包括支援センター保健師看護師会で実施予定(1月予定)。</p>
認知症施策推進事業	<p>認知症初期集中支援チームの対応実績は「0」。</p> <p>一方で、認知症疾患医療センターの相談窓口の活用を行っており、そこから認知症専門外来の受診に繋がったケースもある。専門外来との連携実績も増えてきている。</p> <p>認知症カフェは年間8回計画通り実施中。認知症当事者と介護者のニーズが満たされる内容となっていると思われるが、初めて参加者からの評価を実施し、より良いカフェになるよう検討している。</p> <p>認知症サポーター養成講座は小学校、大学(実績1)、企業(実績1)に対して実施、認知症出前講座(実績2)を実施。</p>
生活支援体制整備事業	<p>地域住民が地域のことを考える「住民座談会」を計画的に開催。1つの活動は本格化した。</p> <p>居宅介護支援事業所に対してのインフォーマルサービスの情報提供などを意識して行っている段階である。</p>

令和 5 年度事業中間評価（総括）

- ・圏域の特性を掴み、地域での出前講座に取り組んできた。いんざい健康ちょきん運動未実施地区且つ繋がりの薄い地区において依頼があった（実績3）のは、大変良かった点であり、講座開催後に個人的に来所相談された方がいたので、成果があると思われる。今後も拡大していく。
- ・複合的な課題をもつケースへの対応に虐待疑いも含まれる場合、市と連携の上、早急な判断や対応が必須となり、迅速な対応能力が今後の課題と思われる。
- ・当事者や介護者の孤立化防止が重要であるが、現状、対応できているのは認知症カフェのみであり、今後優先して取り組むべき課題である。
- ・関係者はもちろん、地域の方、活動者、民生委員、管理事務所関係者等に対して、継続的に関わり、必要な情報提供やより連携を深められるようなアプローチを適宜行っている。